

東京女学館 中学校・高等学校

多文化コミュニティとしての学びや
東京女学館国際学級

国際学級がめざしていること

東京女学館は、日本女性の国際化をめざして、117年前、当時の日本の政治・経済・教育界をリードする多くの人々によって作られた学校です。21世紀を迎えたいま、改めてその今日的な課題をふまえ、2004年4月「国際学級」を開設しました。

東京女学館の国際学級は、帰国生徒、海外生活の経験のない一般生徒、それに外国籍の生徒たちが、ともに、互いに学びあうクラスです。帰国生だけを対象にして、日本の教育に適應させることを目的としたクラスではありません。国際学級でめざしているのは、異なる文化・価値観・コミュニケーションスタイルを持った人たちを理解し、自分の考えを日英両語で、適切に他者に伝えることができる高いコミュニケーション能力を持った人間、自分で考える自立した人間、世界との接点に立ち、他の人たちと協力しそれぞれの力を出し合いながら、人のため社会のために行動する人を育成することです。



国際学級の特徴

国際学級のカリキュラムは、一般学級とは異なる6年一貫のカリキュラムです。それは学習指導要領に準拠しつつ、①語学教育、②異文化相互理解教育、③リーダーシップ教育に力点を置いたものです。そして高校卒業後は、国内の大学のみならず国外の大学へ進学できるような内容となっています。あらゆる教育活動とおして、コミュニケーション能力、表現力、リーダーシップ、考える力などを身につけられるようにします。

上記のような生徒たちが集まったクラスですから、入学時の英語力には非常に大きな差がありますが、高校卒業時には全員がTOEFL213(CBT)をクリアできることを目標としています。英語の授業では、複数の non-Japanese 教員と日本人教員がともに協力し合い、Differentiated Instruction を取り入れていきます。また、英語以外の教科も英語で授業したり（中学では実技教科）、中1と中2ではクラス担任が日本人と non-Japanese の2人体制をとっており、日常的に日英のバイリンガルな生活環境となっています。なお、現在、国際学級は中学1年と2年のあわせて80人足らずの生徒集団ですが、そのうち半数以上が海外生活経験者で、その海外滞在国は23カ国に及んでいます。

授業では、一方的な講義形式を避け、できるだけ生徒中心・生徒参加型の授業を行うとともに、単元ごとに、次の学習のためのフィードバック情報としてきめ細かな評価を実施しています。

国際学級の入試は、帰国生を対象としたもの、一般国内生徒を対象としたものがあります（その他、東京女学館小学校からの内部選抜によって入学する生徒もいます）。帰国生を対象とした入試では、面接を重視したAO(Admission Office)方式を採用しています。これは、国際学級の目的の実現のためには、単なる知識の習得だけではなく、思考力・表現力などが重要だと考えているからです。面接は、保護者同伴の面接と、志願者本人のみの面接があり、いずれも時間をかけてじっくり行います。なお、東京女学館とその国際学級を十分理解し、そこで学ぶことを強く希望される方にきていただきたいのと、入学後のミスマッチを避けるために、出願前に必ず担当者との事前相談を行うようお願いしています。

「国際学級」とはいつても、いわゆる international school とは異なります。117年の歴史と伝統を持った東京女学館の中の1クラスです。一般学級の生徒と同様に白い制服を着用します。その白い制服に象徴され、東京女学館がこれまで大切にしてきたもの一品性一は、この学級においても引き継がれています。

学校形態	女子校
所在地	〒150-0012 東京都渋谷区広尾 3-7-16
電話	03-3400-0867
ファックス	03-3407-5995
Homepage	www.tjk.jp/mh/ic
E-mail	info-ic@tjk.jp
最寄り駅	都営バス（JR 渋谷駅 / 恵比寿駅から） 日赤医療センター行、10分、東京女学館前下車。
創立	1888年
生徒数	中学 724名 / 高校 759名
帰国子女在籍数	中学 55名
帰国子女受入開始	中学校 2003年度
担当	正井 進
併設校	小学校、大学